



『財務無策が招いた資金繰り悪化事例』 …財務に関する適切な対処は出来ていますか。

財務無策が招いた資金繰り悪化事例

資金調達のご相談の中には、「もう少し早くご相談して頂ければ…」というものが多くあります。適切な対処をしていれば、そもそも問題すら起きなかったであろう事案です。本日は、財務無策が招いた資金繰り悪化の事例をご紹介します。

■財務無策とは

財務活動には、「キャッシュフロー管理（資金繰り管理）」「ファイナンス（資金調達）」「資産運用」の3つの活動があります。中小企業は資金力に乏しいため、特に、「キャッシュフロー管理」と「ファイナンス活動」が重要です。しかしながら、知識とスキルの不足により、財務活動に対して無策である中小企業様が多く見られます。

■財務無策が招いた資金繰り悪化事例

【事例1】
余剰資金を持たずに経営を行っているケース

商売がそれなりに順調で、毎月の資金繰りも何とか回っているため、資金の調達を怠っている企業様が多くおられます。「不測の事態により売上が減少し、慌てて銀行に融資を依頼したが断られてしまった」と言うご相談です。お聞きすると、過去には銀行の方から融資を進めに来ていたとのこと。「銀行を儲けさせるだけなので断っていた」とのことですが、中小企業の信用力は決して高くありません。不測の事態を想定し、資金に余裕を持たせておくことは、財務戦略の基本です。

【事例2】
キャッシュフローの管理ができていないケース

「売上を貪欲に増やしていたら、忙しいため人を増やしていたら、突然資金繰りが厳しくなっちゃった。慌てて資金調達に動いたが銀行から良い返事が得られない」と言うご相談です。突然資金繰りが厳しくなるような資金管理がもとにもできていない企業への融資は不安です。銀行の対応は当然ネガティブになります。売上が伸びて忙しくなる事は本来良いことですので、計画的に資金調達に動いていけば、スムーズに調達出来ていたはず。わずかな事で資金不足に陥りがちな中小企業にとって、キャッシュフローをしっかりと管理することは、必須の財務活動です。

【事例3】
実力以上の返済を行っているケース

本業の稼ぎ以上の返済を行っている企業様も多く見られます。手元資金が減少していきますので、当然資金繰りが厳しくなります。問題は、「自社の返済能力の限界を知らないこと」「借入を早く返したいという意識が強すぎる」と「返済のピッチをなだらかにする方法を知らないこと」などが挙げられます。手元資金が不足してからアクションを起こすのではなく、自社の返済能力を知り、事前に借入金をコントロールしておけば、何ら問題は起きなかった事案と言えます。

繰り返しますが、中小企業は資金力に乏しく、わずかなことで資金不足に陥る危険性を常に抱えています。財務活動をしっかりと行うことで回避できるリスクは多くあります。財務無策からの脱却を目指しましょう。お手伝い致します。

銀行融資プランナー協会マガジン

- 本情報の信頼性の向上には最善を尽くしていますが、その正確性を保証するものではありません。
- 銀行対応に関するご相談は、銀行融資プランナー協会正会員事務所にて承っております。お気軽にご相談ください。
- コラムに関するご意見、ご感想、経営に関するご相談などございましたら、右記までお問合せください。

メールマガジンに関するお問い合わせ先

GPC-Tax本部〔一般社団法人銀行融資プランナー協会事務局〕
TEL：06-6260-0022《担当：勝見孝志》
事務局所在地：大阪府大阪市中央区船場中央1-4-3-221号・222号
URL：http://www.bankfinancial-planner.com/

銀行融資プランナー協会

検索